

背景

- ① 小規模な家族農業等では、常時雇用が難しいことから農繁期における家族従事者の長時間労働の慢性化や休暇の不規則化が顕著
- ② 民間企業社員や自営業者・従業員等において、勤務先の休日や在宅勤務による余暇時間などを使った副業や兼業とともに、短日・短時間での働き方(ワンデイワーク)需要の拡大が予想

目的

家族農業等の労働量力不足を解消するため、ワンデイワーク等多様な働き方を求める人材を確保し、DXにも対応した労使マッチングの仕組み構築を目指す

- ① ワンデイワーク等の新しい働き方にかかる基礎調査の実施(先行事例調査、モデル地域内のワンデイ求職状況・求人状況の調査)【R3年度】
- ② 調査結果に基づき、DXを見据えたワンデイワークの試行、並びに課題整理と改善提案、情報発信【R4、R5年度】

R3年度成果

- ◆モデル地域として玉城町・御浜町を選定し、受け手、働き手双方に意向調査。
- ・玉城町では水田、御浜町ではカンキツ農家を中心に外部労働力活用意向あり。
- ・両地域においてワンデイワークに関心のある企業、従業員が一定数存在する。

<R3年度アンケート調査結果より抜粋>

対象	項目	玉城町	御浜町
受け手	労働力不足かつ外部労働力に関心あり	26/120 ^{※1} 件	18/37 ^{※3} 件
	労働力が不足している主な作業	水稲育苗 田植え 水稲収穫関連 畦草刈り	カンキツ摘果 カンキツ収穫 カンキツ袋掛け
働き手	副業兼業を容認・進めている企業	39/74 ^{※2} 件	25/51 ^{※2} 件
	上記のうち農作業支援に興味関心がある企業	15/39 ^{※2} 件	6/25 ^{※2} 件

※1 全アンケート回答者のうち、兼業農家および専業農家(5ha以下・70歳以上・労働力は家族のみ)の農業者数 ※2アンケート回答事業所数

※3 全アンケート回答者のうち、兼業農家および専業農家(1ha以下・70歳以上・労働力は家族のみ)の農業者数

課題

- ①受け手(農業者)：外部労働力の雇用に関する不安の払拭
(ex.怪我や事故時の対応は？賃金はいくら？求人アプリの使い方は？)
- ②働き手(企業従業員等)：農作業および副業・兼業への理解促進
(ex.副業・兼業の留意点は？農作業時の心構えは？求人アプリの使い方は？)
- ③ワンデイワーク試行による効果検証・課題抽出

R4年度実施概要

モデル地域におけるワンデイワークのマッチング実施

R3に選定・調査された2モデル地域(玉城町、御浜町)において以下を実施

- ① 受入意向農業者を対象とした労働環境整備に関する研修等の実施
- ② 働き手を対象とした農作業従事に関する研修等の実施
- ③ ワンデイワークの仕組み構築にむけたマッチング方法の検証
(3種類のマッチングアプリ(農mers、indeed、daywork)について検証)

ワンデイワークのマッチング試行による効果や課題の検証

- ① ワンデイワーク試行の実施
- ② ワンデイワークの効果検証・課題抽出
- ③ 仕組みの効果的な普及・啓発の実施

R5年度実施予定

- ①マッチングの実施:さらなる事例を積み重ねることで課題・改善点を整理する。
- ②普及・啓発:上記で得られた成果をもとにリーフレット等啓発資料の作成および推進セミナーの実施によりワンデイワークの普及を図る。